



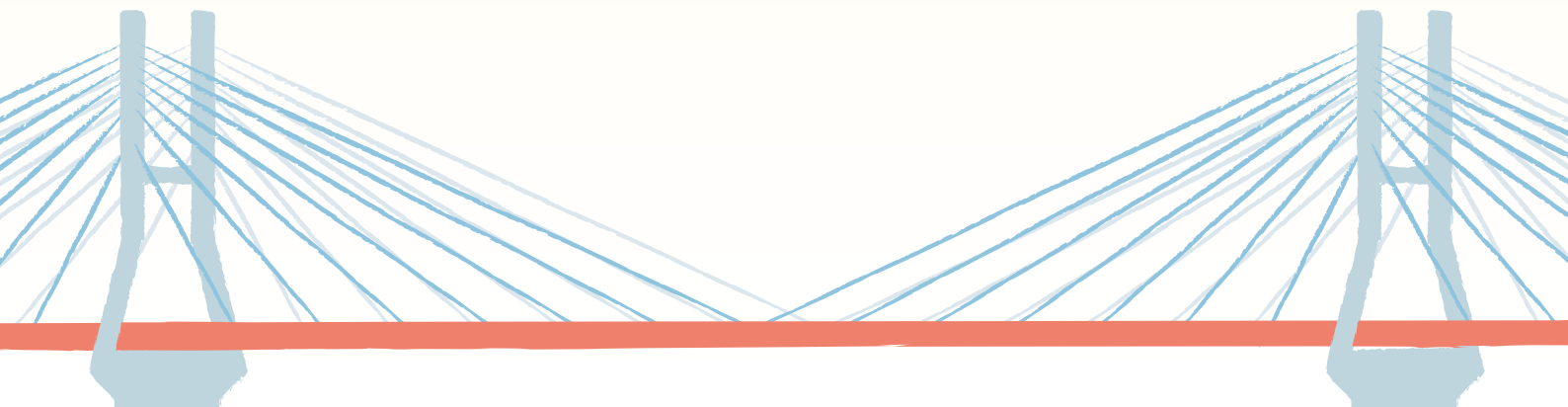
レスポンシブル・ケア

RESPONSIBLE CARE REPORT 2012

JSR 鹿島工場レポート 2012



銚子大橋



目 次

- ・レスポンシブル・ケア (RC) とは ①
- ・JSRグループ 企業理念体系 ②
- ・鹿島工場 環境・安全衛生推進体系 ③
- ・鹿島工場 環境・安全衛生方針 ④
- ・JSR製品と社会との関わり ⑤
- ・2011年度 トピックス ⑥～⑦
- ・レスポンシブル・ケア7つの推進項目と2011年度の主な活動実績 ⑧～⑨
 - 推進項目1
〈環境・安全を配慮した製品の開発：工場では特記的活動事項なし〉
 - 推進項目2
〈製品に関する環境・安全情報の提供〉 ⑩～⑪
 - 推進項目3
〈地域の人の安全確保と環境の保全〉 ⑫～⑬
 - 推進項目4
〈環境負荷の低減〉 ⑭～⑰
 - 推進項目5
〈国際事業における環境・安全の確保：工場では特記的活動事項なし〉
 - 推進項目6
〈社員の健康安全〉 ⑱
 - 推進項目7
〈全社員の責任と自覚〉 ⑲～⑳
- ・鹿島工場の概要 ㉑

開示範囲

当工場の他、工場内のグループ企業のデータ（2011年4月～2012年3月）を一部含みます。

表紙写真

一級河川利根川の河口付近を渡河し千葉県銚子市と茨城県神栖市を結ぶ、橋梁部分1,203.2m、延長1,450m、幅員7.0m、水面からの高さ11.5mの鋼トラスおよび連続・単純合成鋼桁橋からなる長大橋。

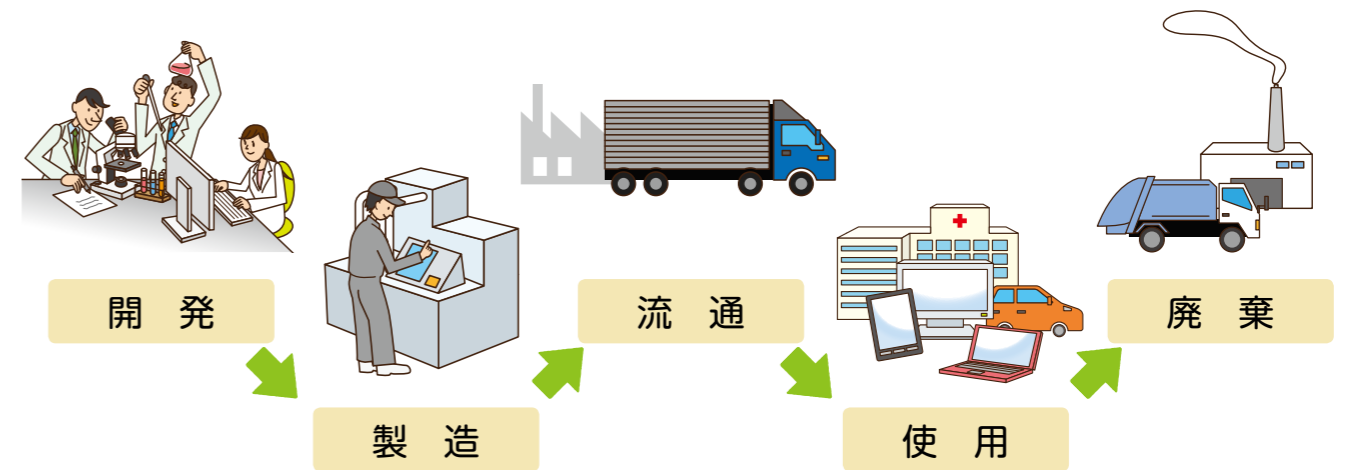
出展：フリー百科事典「ウィキペディア (Wikipedia)」



レスポンシブル・ケア (RC) とは

レスポンシブル・ケア (RC)

レスポンシブル・ケアとは「化学物質を製造し、または取り扱う事業者が、自己決定、自己責任の原則に基づき、化学物質の開発から製造、流通、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ライフサイクルにわたって環境・安全・健康を確保することを経営方針において公約し、環境・安全・健康面の対策を実行し、改善を図っていく自主管理活動」をいいます。



JSRグループ企業理念体系



With chemistry, we can.

2020年のあるべき姿

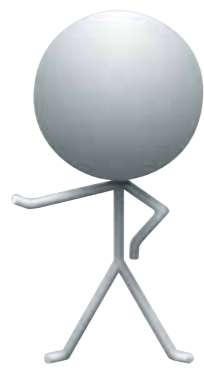


- ◆企業理念の下、時代の成長産業を捉え、グループを挙げた取り組みにより大きく**社会貢献**している。
- ◆戦略性に富む企業として、それぞれの事業分野で**グローバル**にデファクト製品を有している。
- ◆「**自由**」と「**規律**」の文化の下、多様な人材が環境変化に対応し新しいやり方に常に挑戦している。

企業理念

Materials Innovation

マテリアルを通じて価値を創造し、人間社会（人・社会・環境）に貢献します。



存在意義

経営方針

変わらぬ経営の軸

- ・絶え間ない事業創造
- ・企業風土の進化
- ・企業価値の増大

ステークホルダーへの責任

- ・顧客・取引先への責任
- ・社員への責任
- ・社会への責任
- ・株主への責任

判断の基準

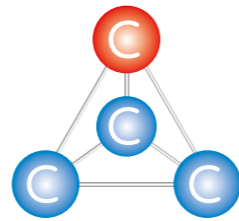
行動指針：4C

Challenge
挑戦

Communication
対話

Collaboration
協働

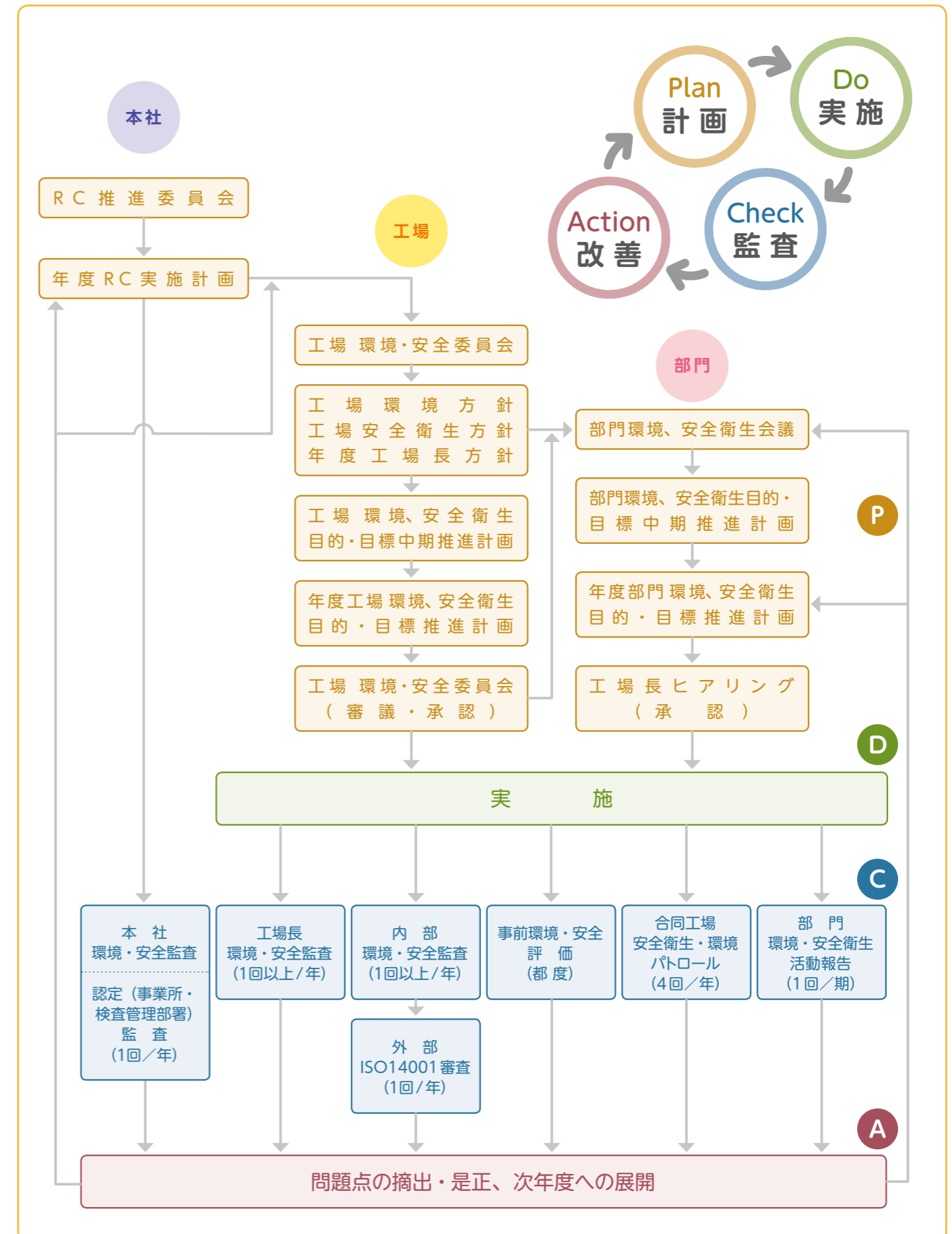
Cultivation
共育



CHALLENGE
COMMUNICATION
COLLABORATION
CULTIVATION

自由と規律の両立した風土

鹿島工場 環境・安全衛生推進体系



環境方針

- 1 工場の活動、製品及びサービスが環境に影響していることを認識し、地域社会、顧客及び従業員の環境・安全を確保し、社会との共生を図る。
- 2 工場環境マネジメントシステムを確立・維持し、環境の継続的改善と汚染の予防に努める。
- 3 関連する環境の法規制及び工場が同意するその他の要求事項を遵守する。
- 4 省エネルギー、省資源、化学物質の環境負荷の低減に努めるとともに廃棄物の有効利用とリサイクルを図る。
- 5 本方針を遂行するため、年度毎に環境目的及び目標を設定・実行し、社内外の状況の変化に応じて必要な見直しを行う。
- 6 本方針は、当工場働く全ての就業者に周知するとともに全ての社外要求者に公開する。

JSR株式会社 鹿島工場





安全衛生方針

- 1 工場の生産活動において大量の危険有害物質を取り扱っていることを認識し、従業員の安全衛生を確保すると共に、地域社会の安全を確保し、共生を図る。
- 2 安全衛生マネジメントシステムを確立、着実に実行し、安全衛生の継続的な改善により、事故・災害、職業性疾病の未然防止並びに健康増進に努める。
- 3 安全衛生に関する法規制及び社内規定等工場が同意するその他の要求事項を遵守する。
- 4 本方針を遂行するため、全員参画のもとに年度毎に安全衛生目的・目標を設定・実行し、社内外の状況変化に応じて必要な見直しを行う。
- 5 本方針は、当工場働く全ての就業者に周知し、理解させると共に適切に実施し、維持向上に努める。

JSR株式会社 鹿島工場

JSR製品は、合成ゴムを始めとした石油化学系製品並びに情報電子材料分野まで、私たちの暮らしに欠かすことのできない様々な製品の素材として幅広く使用されています。

そこで、JSR製品が、皆さんの気付かないどのようなところで使用されているか身近なところでご紹介します。

JSR製品	主な使用例
 エラストマー 汎用合成ゴム → 特殊合成ゴム → オレフィン系熱可塑性エラストマー → マスターバッチ →	● 自動車のタイヤ、ゴルフボール、ベルト、各種工業用品など ● 自動車の燃料ホース、タイヤチューブ、窓枠、パッキンなど ● 自動車部品、シール・パッキング材など ● 各種タイヤ、はきもの、ベルト、ホース、各種工業用品など
 熱可塑性エラストマー ブタジエン系熱可塑性エラストマー → スチレン系熱可塑性エラストマー → 水素添加ポリマー → アスファルト舗装改質材 →	● 各種はきもの底、医療用チューブ、フィルム、各種スポンジ製品など ● 各種はきもの底、アスファルト改質材、粘・接着剤、樹脂改質剤など ● 透明軟質フィルム、粘・接着剤、自動車内・外装品、文具など ● 耐摩耗舗装、低騒音舗装、耐流動性舗装、排水舗装など
 エマルジョン 紙塗工用ラテックス → アクリルエマルジョン → 一般産業用ラテックス →	● 印刷用塗工紙 ● フロアポリッシュ、建築外装塗料、防汚コート材、粘・接着剤など ● カーペットパッキング、タイヤコード接着剤、各種接着剤など
 合成樹脂 ABS樹脂 → AS樹脂 → 耐候性樹脂 → ポリマーアロイ →	● 自動車の内・外装部品、家電製品、OA機器、建材用部材など ● OA機器部品、化粧品容器、ライター、雑貨など ● 自動車外装部品、建材用外装部品、エアコンダクトカバーなど ● OA機器部品、自動車内・外装部品、パチンコ部材、建材用部材など
 電子材料 半導体製造用材料 → 実装材料 → 検査治具関連 → 架橋ゴム → 低電食性NBR →	● 半導体製品製造用 ● 半導体製品製造用 ● プリント配線板検査、半導体検査、パッケージ基板の導通検査など ● プリント基板絶縁層樹脂改質、ICモールド樹脂改質 ● フレキシブルプリント基板接着層改質
 ディスプレイ材料 液晶ディスプレイ用材料 → 紫外線硬化型樹脂・光学材料 →	● 各種配向膜、LCD・CCDカラーフィルター用保護膜など ● ディスプレイ製品の表面反射防止、光ディスク用接着剤など
 光学材料 紫外線硬化型光ファイバーコーティング材 → 光造形用硬化樹脂 → 光造形システム →	● 光ファイバーコート材 ● 光造形 ● 光造形
 機能化学品 多機能・高機能分散材 → 高機能・工業用粒子 → 高機能ソル・ゲル材料 → 電池材料 → その他 →	● 各種分散剤、乳化安定剤、帯電防止剤、インクジェット材料など ● 樹脂添加剤、コーティング剤、顔料添加剤、光拡散材、白色化材など ● セメント系建材、建材・瓦用塗料、コーティング材など ● リチウムイオン二次電池、電気二重層キャパシタなど ● 樹脂添加剤、コーティング剤、塗料添加剤など
 メディカル材料 標準粒子 → バイオメディカル材料 →	● 各種寸法標準、粒子径・粒子個数表示の校正標準、濁度計の校正など ● 免疫診断用担体、研究試薬、免疫測定試薬、ブロッキング試薬など
 精密材料・加工 耐熱透明樹脂 → 光学フィルム → 透明導電性フィルム →	● 光学レンズ、タッチパネル基板、導光板、ミラーなど ● 液晶ディスプレイ用視野角拡大フィルム、位相差フィルムなど ● タッチパネル用透明導電性フィルム
 環境・エネルギー分野 リチウムイオンキャパシタ →	● 瞬時電圧低下補償装置、無停電電源装置、風力発電、太陽光発電、無人搬送装置・産業用ロボット・産業機器その他の蓄電用途など

TOPIC.1

大津波警報発令想定避難訓練

訓練対象者を工場就業者全員とし、茨城県沖を震源とするマグニチュード9.0、震度7の地震発生直後に、東北地方から九州地方に至る太平洋沿岸に大津波警報が発令された想定で、当日の社員及び協力会社員314人を対象に研修センター2階の第1研修室と厚生棟2階の第6会議室へ分散避難し、安否確認に併せ避難ルート、避難時間等の確認を行いました。

今後もこのような訓練を繰り返し行い、迅速かつ安全な行動が取れるようにしていきます。



避難・移動



集合・点呼



部署別結果報告



工場長に結果報告

TOPIC.2

復興支援ボランティア活動

JSRグループでは、2011年7月～2012年3月までの間、合計12回延べ人数203名の社員のうち当工場からも7名参加し、砂浜や水田等での瓦礫撤去作業や漁業復興支援活動等を継続的に行い、被災された方々の生活再建に貢献してきました。また、宮城県気仙沼市の大島で実施したJSRグループ社員有志によるボランティア活動に対し、気仙沼大島災害対策本部長より感謝状をいただきました。

メンバー集合



ワカメ基抜き



カキ稚貝選別



ガレキ撤去



倒木撤去



ガレキ選別

TOPIC.3

復旧・生産再開への感謝

3.11の震災により、専用バースや海水ポンプ場が大きな被害・損傷を受けました。ライフラインも被災し生産がストップしている中、災害防止協議会の会員各社及び協力会社の皆さんのお力添えのおかげにより、想定より早い段階で復旧・生産の再開が可能となったことへの感謝の意を込め、当工場長より災害防止協議会の会員各社、山九(株)、及び長谷川常務執行役員より(株)明電舎へ感謝状を贈呈しました。

最後に、東日本大震災から1年が経過し、四日市・千葉・鹿島工場では、犠牲となられた多くの方々に弔意を表して半旗を掲げ、地震発生の14時46分に1分間の黙祷を捧げました。



山九(株)



(株)明電舎



清水建設(株)



黙祷



半旗

レスポンシブル・ケア

7つの推進項目と2011年度の主な活動実績

JSRのレスポンシブル・ケア活動の7つの推進項目

鹿島工場の2011年度の主な実績

関連ページ



1. 環境・安全を配慮した製品の開発

新製品の計画にあたっては、研究開発から製造、流通、使用、廃棄に至るまでの評価を行い、環境・安全・健康面に配慮した製品の提供に努めます。

- 研究開発部門、事業部門で推進しています。



2. 製品に関する環境・安全情報の提供

顧客や輸送業者などに「MSDS：化学物質（製品）安全データシート」及び「イエローカード：緊急連絡カード」を提供します。

- 「GHS：化学品の分類及び表示に関する世界調和システム」に沿った「MSDS」及び「イエローカード」の配布、周知化教育、携帯状況のチェックを行い、運送上の環境・安全の確保を図っています。

10~11



3. 地域の人々の安全確保と環境の保全

事業活動に伴う環境影響に配慮し、地球環境対策や事業所の安全対策及び大規模地震対策に積極的に取り組み、より信頼感のある事業所作りを目指しています。

- 保安防災設備保有状況を紹介します。
- 社員の教育・訓練を計画的に行い、有事対応力の向上に努めています。
- 神栖市立波崎第二中学校で理科の出前授業（第3回）を開催し、社会とのコミュニケーションを図りました。

12

13

13



4. 環境負荷の低減

化学物質の環境影響調査を行い、計画的に化学物質排出量の削減に努めます。また、廃棄物については、発生量の削減（リデュース）、再使用（リユース）、再利用（リサイクル）を徹底し、環境負荷の低減に努めます。

- 2005年度以降、環境クレーム発生「ゼロ」を継続しています。
- 大気汚染物質排出量は減少傾向で推移しています。
- PRTR法対象物質排出量・移動量は、震災の影響により使用量は減少しましたが廃棄物発生量が増えて移動量が増加しました。
- 有害大気汚染優先取り組み物質自主管理排出量95%削減目標を継続して達成しました。
- 産業廃棄物削減目標を定めて推進、産業廃棄物発生量は増加しましたが直接埋立処分量「ゼロ」を継続して達成しました。
- 省エネルギーについては、中期計画目標（年率1%削減）を継続して達成しました。
- 揮発性有機化合物（VOC）大気排出量削減は2000年度比82%削減となり、中期計画目標（70%削減）を継続して達成しました。

14

14

15

15

16

17

17



5. 国際事業における環境・安全の確保

国際的な環境安全技術の移転に協力すると共に、海外における企業活動に際しては国内外の規制を守り、進出先国の環境・安全の確保に協力します。

- 鹿島工場の省エネ等の実績を社内関係部門に情報提供、サポートしています。



6. 社員の健康安全

化学物質及びその取り扱いに関する事前安全評価を充実し、作業と設備の改善を行うとともに、さらに健康で安全な職場作りに努めます。

- 当該単位作業場所全てにおいて、気中有害物質の濃度が管理濃度を超えない良好な作業環境状態を維持しております。
- 産業医による講演会を開催しました。
- 自動体外式除細動器（AED）操作方法の講演会を開催しました。

18

18

18



7. 全社員の責任と自覚

レスポンシブル・ケアの取り組みについて社長声明に基づき、経営者から社員一人ひとりに至る全社員が責任を自覚し、法の遵守はもとより、環境・安全の継続的改善に努めます。

- 2011年度は、労働安全衛生法に基づく第一種圧力容器の「2年開放検査周期（2年連続運転）」に日本ブチル(株)鹿島工場を追加更新認定取得しました。
- 本社RCキャラバンを継続的に実施し、RC活動の周知徹底を図っています。
- 2011年度の環境標語・ポスターの募集、優秀作の表彰を行いました。
- 功労表彰から提案表彰まで各種の表彰制度により、業務成果等に報い、チャレンジングな企業風土の醸成とモチベーションの向上に努めています。
- 2011年度も、(社)石油化学工業協会(石化協)はじめ多方面から社外表彰を受賞しました。
- 石化協主催の「第29回保安推進会議」席上で当工場長が講演を行いました。
- 自動車適正運転診断を行いました。

19

19

19

20

20

20

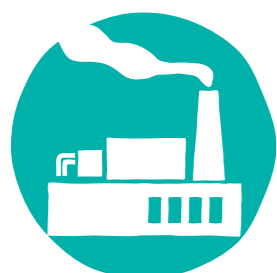
20

製品に関する環境・安全情報の提供



原料調達

使用している全ての原料について、原料メーカーから「MSDS：化学物質（製品）安全データシート」を入手、使用の安全性確認を行うと共に、適用法令・危険性・有害性など「鹿島工場主・副原料一覧表」にまとめ、社員の教育に役立てています。



JSR(株) 鹿島工場(製造)

ISO9001及びISO14001に基づき、内部環境・品質監査、工場長環境・安全・品質監査、外部審査機関(JQA：(財)日本品質保証機構)による維持・更新審査により、定期的に確認を行うと共に、対策フォローを確実に実施して維持・管理を行っています。

また、事故・災害を想定した、通報連絡、初期消火、拡大防止及び対外広報活動を定期的に防災訓練で確認しています。



流通

工場から出荷される全ての製品及び産業廃棄物の輸送中における事故対応訓練の実施、事故が発生した場合の迅速な通報連絡と共に、事故による被害を最小限にするため、ドライバーに「MSDS」及び「イエローカード」を配付、周知化教育を実施すると共に、携帯状況の確認を定期的に行っています。



顧客

全ての自社製品について「MSDS」を整備し、顧客の皆様へ環境・安全衛生情報を提供しています。



製品

出荷された製品は、客先において加工、利用され、一般消費者の皆様の日常製品の一部として生まれ変わります。

高圧ガス貯蔵タンク



危険物貯蔵タンク



生産ライン



本社監査



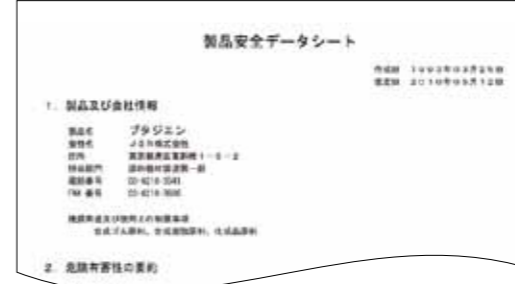
トラック出荷



イエローカード



製品MSDS



GHS 絵表示



製品使用例



製品使用例





保安防災設備の保有状況

当工場は大量の高圧ガス・危険物等を保有、取り扱っていることから、各プラントに保安関係法令に基づく防災設備、防災資機材を設置、保有すると共に、自主防災設備として遠隔操作式高所放水砲、ポンプ散水設備等を設置し、有事に迅速な初期防災対応ができる体制としています。

工場では下表に示す防災設備を保有、設備の維持管理及び社員の教育・訓練を計画的に行い、万が一事故・災害が発生した場合の被害の拡大防止に努めております。

鹿島工場 防災設備一覧		
設備名	目的	機能
J S R 防災無線	緊急時の連絡	10W : 1台、5W : 6台、1W : 12台
消防車	初期防災、拡大防止	放水能力6,000ℓ/分、直上60m以上
負傷者搬送車	重傷者以外の迅速搬送	担架、空気呼吸器、自動体外式除細動器 (AED) 等
移動式指揮車	現場指揮所補助設備	現場指揮所と指揮本部の情報交換
広報車	地元広報	防災無線、広報設備
緊急地震速報システム	地震時の対応	緊急地震速報の受信、場内一斉放送
地震計	地震時の安全対策	・ 2 out of 3 (3台の地震計の内2台の地震計の加速度設定値を超えた場合) によるプラント及び導配管の緊急自動停止 ・ 場内一斉自動放送
風速・風向計	高所作業安全対策	・ 風速10m/秒で「注意報」の自動放送 ・ 風速15m/秒で「停止報」の自動放送
雨量計	水害対策	降雨量30mm/時間で自動警報
ガス検知器連動型道路遮断機	漏洩時の場内道路遮断	自動ガス検知器で爆発下限界の1/5検知で自動遮断
ガス検知器連動放送設備	漏洩の早期発見、措置対策	ハロゲン、可燃性ガス等の発報検知、場内一斉放送
工場敷地境界線監視システム	不法侵入者に対する迅速対応	センサー：4セット、モニター：1台
場内防災監視システム	・ 通常時：場内監視 ・ 災害時：現場把握	場内にテレビカメラ3台設置、警防係(情報センター)で常時モニター
テレビ会議設備	工場と本社災害対策本部との情報交換、連携強化	工場災害対策本部に、テレビ会議設備設置(46インチモニター、カメラ、マイク)
衛星電話	地上回線途絶時の通報連絡	携帯型1台
インターネット電話	工場と本社災害対策本部との情報交換、連携強化	・ Skypeクライアントパソコン：2台 ・ 光ファイバー常時接続回線：2回線

保安防災活動

保安防災活動については、2011年度工場長年度方針を掲げ日々の生産活動を行っていますが、万が一事故・災害が発生した場合に備え訓練を計画的に推進し、迅速な通報連絡、初期消火・拡大防止並びに重大災害発生時の対外対応訓練(クライシスコミュニケーション訓練)を実施し、有事対応力の向上に努めています。

防災隊長・引き継ぎ



説明班・情報収集



情報収集班・本社対策本部に報告



自衛防災隊・初期活動



社会とのコミュニケーション

2011年12月6日、神栖市立波崎第二中学校において2年生約60名(2クラス)を対象に今回で3回目となる理科出前授業を開催し、校長先生や教育委員会の方も参加されました。

昨年に引き続き、「固形ゴムの生成」、「スーパーボール」、「ダンベル」を使用した3つの実験を交え、JSRでは色々な分子を組み合わせる新しい性質の材料を作っていることを説明しました。

授業の様子は新聞(3紙)にも取り上げられ、当日の夕方にはNHK水戸放送局にて授業の様子が放映されました。インタビューを受けた生徒からは「理科は苦手だけど解り易く楽しかった」、「分子がいつも生活している身の周りに色々なものがあるとわかった」等の感想を述べていました。



授業風景



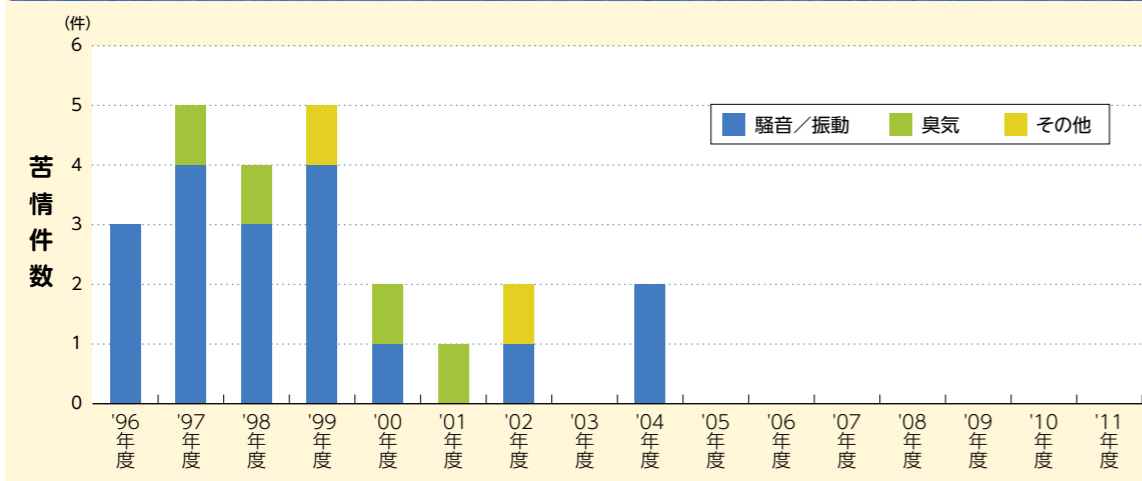
インタビュー風景

環境苦情

過去16年間の当工場の環境に関する苦情は下のグラフに示すとおり24件発生し、その中で「騒音・振動」に關係する苦情が18件（全体の75%）発生しています。

2004年度に発生したグラウンドフレアの燃焼に起因する気柱（低周波）振動の防止対策を講じて以降は、その他の苦情を含めて発生はなく良好な環境が維持されています。

環境苦情件数の推移



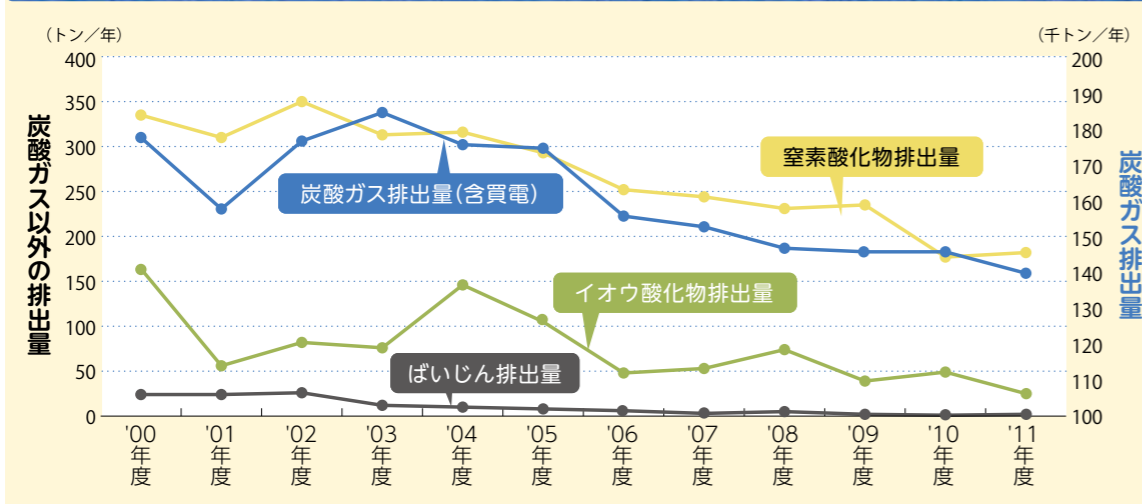
大気汚染物質排出量推移

当工場は、生産及び生活環境で使用する電気・蒸気を一括して鹿島南共同発電(株)より受け入れ使用しています。これに伴う大気汚染物質の排出量推移は下のグラフに示すとおりです。

傾向としては、生産量に起因するところではありますが、種々の省エネルギー対策、運転の見直し及び鹿島南共同発電(株)での燃料の改善などで減少傾向にあります。

一方、2011年度計画より当社のCO₂削減目標を定め、2020年度の全社トータルCO₂排出量を1990年度比25%削減に設定し、長期的視野に立って推進します。

大気汚染物質排出量推移



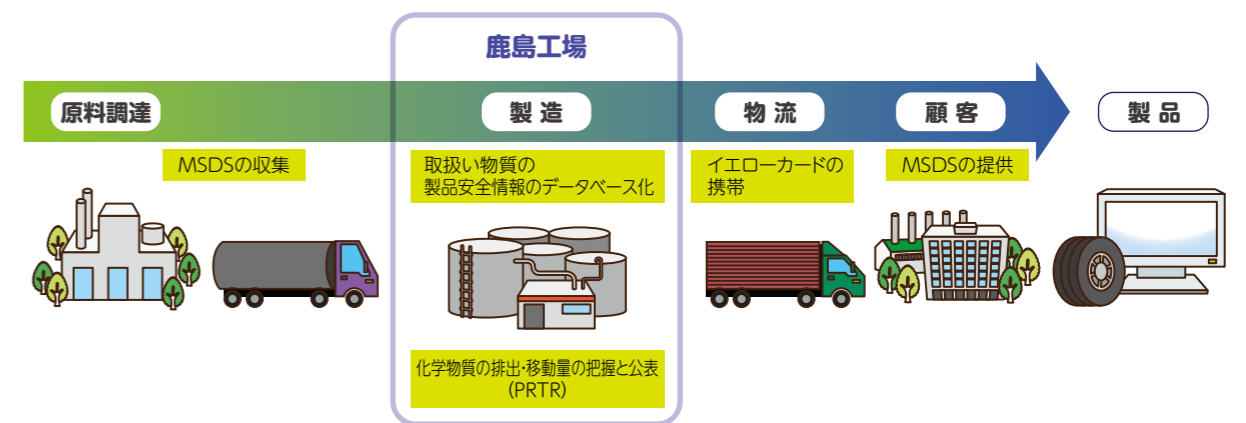
化学物質の取り組み (ジェイエスアール クレイトン エラストマー(株)(JKE)含む)

(1) PRTR活動

2011年度も「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の推進に関する法律（PRTR法）」の改正による新規追加対象4物質のデータの精度アップを行いました。

また、2011年度は2010年度に対し、東日本大震災の影響により、使用量は17%減少しましたが被災措置等で移動量は14%増加しました。

鹿島工場の化学物質の流れ



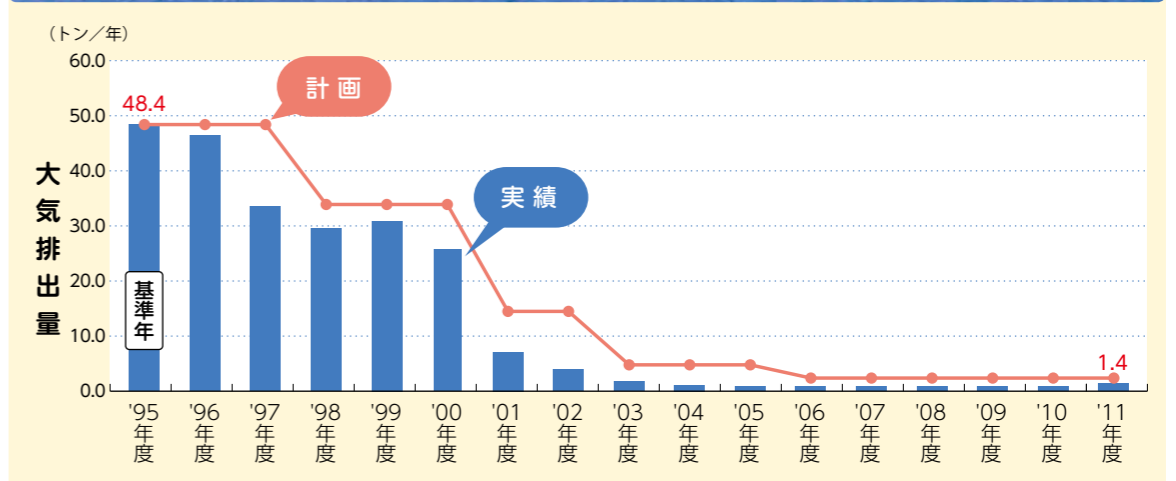
(2) 有害大気汚染優先取り組み物質の排出量削減活動

日本化学工業協会（日化協）を中心に12物質を優先取り組み物質と定め、排出量削減の取り組みを行っています。当工場の対象物質は、下のグラフに示す1,3-ブタジエンで、2000年7月に設置した「グラウンドフレア」での燃焼処理や各プラントの設備、作業方法の改善対策により着実に削減を図っています。

2011年度は非正常作業に伴い微増しましたが、1995年度比95%削減の自主管理目標を達成し継続しています。

また、敷地境界線4辺の定期（4回/年）確認分析において、大気環境濃度指針値の年平均2.5μg/m³以下を安定的に達成できる目処を付けました。

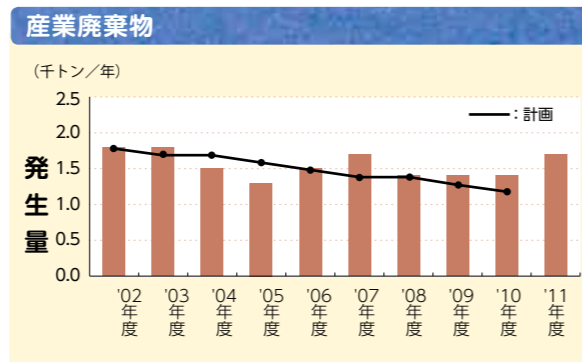
1,3-ブタジエン大気排出推移



産業廃棄物の削減 (JKE含む)

産業廃棄物の発生量の推移は右のグラフに示すとおりで、生産品構成比率の変動に伴い汚泥が53%増加し、2011年度は基準年2010年度0.006T(年間廃棄物発生量:トン)/T(年間製品生産量:トン)に対し0.009T/Tで目標(0.5%減)未達となりました。

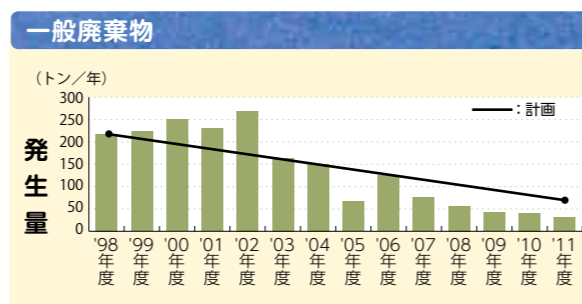
今後とも、産業廃棄物削減(年率0.5%減)中期計画に基づき、更なる削減に取り組んでいきます。



一般廃棄物の削減 (JKE含む)

一般廃棄物については、2011年度も継続的にきめ細かい削減努力により中期削減計画(1998年度比70%減)に対し86%減で削減目標を継続して達成しました。

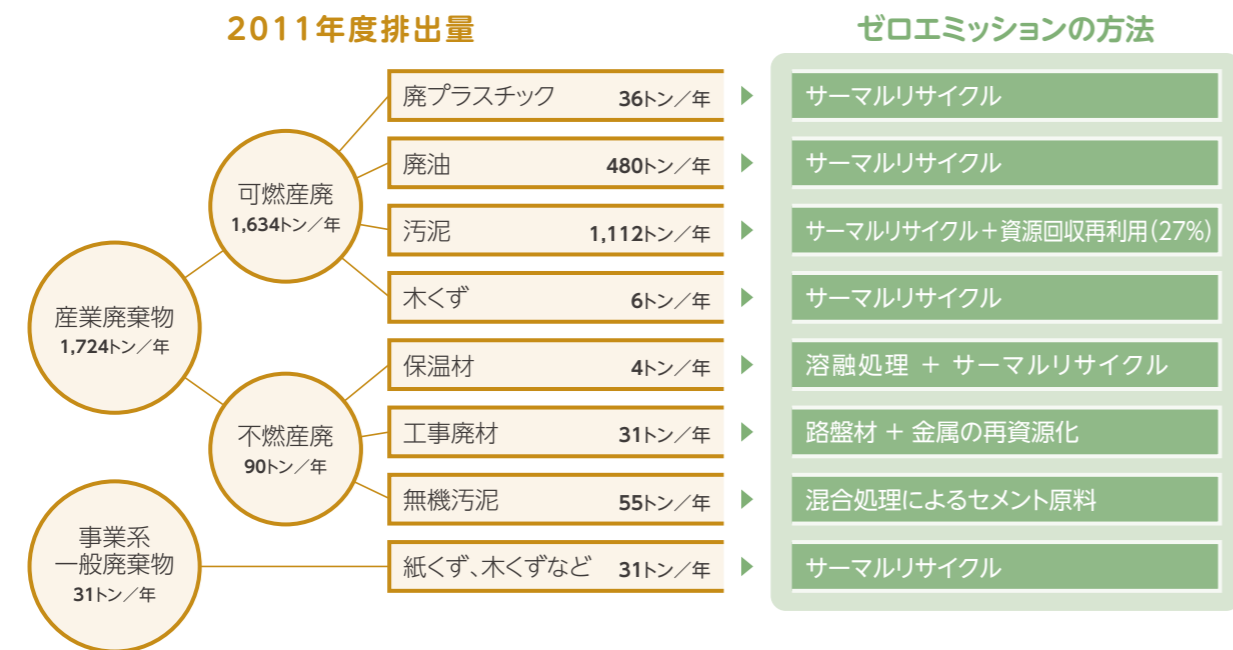
今後とも、更なる削減に取り組んでいきます。



ゼロエミッションの取り組み (JKE含む)

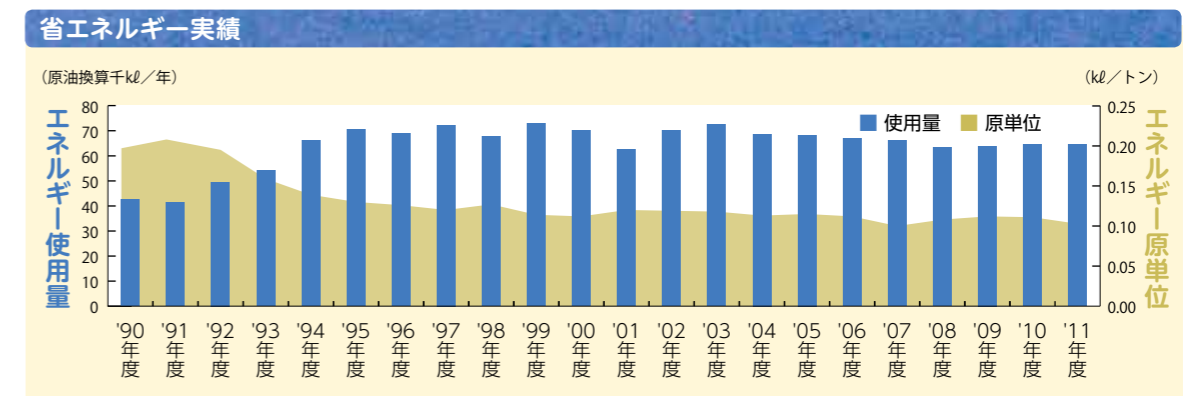
ゼロエミッション(※)活動については、2011年度もアスベスト含有廃棄物はもとより、アスベスト非含有保温材などの溶融処理及び資源回収を継続し、直接埋立量「ゼロ」で目標を達成しました。

※ゼロエミッション: 外部最終埋立処分量を全廃棄物発生量の0.05%以下にする。



省エネルギーの推進

省エネルギーの推進については「工場省エネ委員会推進計画」に基づき推進しています。2011年度は運転方法の改善、生産性向上等により電力の効率化を図りました。2011年度のエネルギー原単位としては東日本大震災により2010年度比生産量が5%減少しましたが、年率1%削減目標を継続して達成しました。また、中期削減目標(1990年度比20%減)に対しては48%削減となり目標を達成しています。



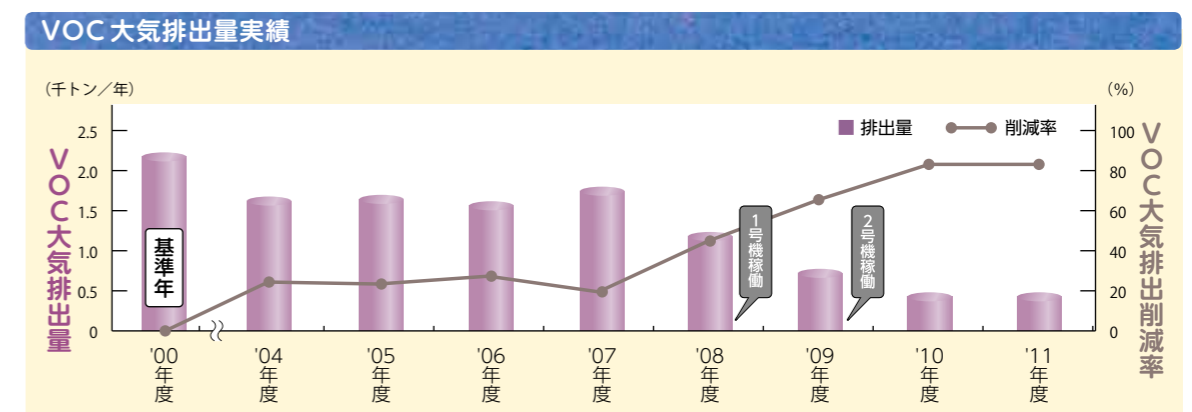
揮発性有機化合物(VOC)の削減対策 (JKE含む)

当工場は、グループ企業を含め各種合成ゴムを溶液重合法(原料と溶剤を混合、触媒を加えて重合させる方法)により製造しています。

溶剤については、重合工程で回収・再利用していますが、ゴム中に残存する若干の溶剤は合成ゴムの乾燥工程において排気ガスとして大気に排出されることから大きな環境負荷となっていました。

この環境負荷を抜本的に低減させるべく、排気ガス処理設備として「蓄熱燃焼式脱臭設備(※RTO)」を導入しました。1号機(2008年3月)及び2号機(2009年4月)が稼働し、2011年度は、2000年度比70%削減目標に対し82%削減となり中期削減目標を達成しました。

※RTOの仕組み
蓄熱体(セラミック・白金等)中を通過することで、800℃前後に過熱された排ガス(VOC・臭気を含む)が、燃焼室で更に加熱され完全酸化分解されます。分解された高温のガスは再度、蓄熱体を通過することで吸熱され、低温のクリーンガスとして排気されます。



健康診断等の実施

健康診断（一般、特殊）や、産業医、衛生管理者による職場パトロールを定期的の実施し、健康の維持増進と労働衛生の確保を図っています。

労働安全衛生法省令（作業環境測定基準及び作業環境評価基準）に基づく作業環境測定において、当該単位作業場所全てが気中有毒物質濃度が管理濃度を超えない良好な作業環境状態を維持しております。

また、産業医を担当されている「平野井 啓一」先生による健康管理・増進セミナーとして『健康診断結果の楽しい見方』を題目に講演会を開催し、グループ企業も含めた約110名の方々が聴講しました。ともすれば硬く、難しい健康診断結果や検査項目の本当の意味や留意点などを分かりやすく、時にはユーモアを交えながら説明して頂きました。

受講全景



真剣な社員



平野井先生



職場パトロール



AED講習会開催

フクダ電子南関東販売株式会社様のご協力により、実践を兼ねた自動体外式除細動器（AED）操作方法の講演会を開催し、グループ企業も含めた約170名の方々が聴講しました。「AEDは知っているが、いまいち使い方が分からない」と言う人も少なくなく、予定募集人数の3倍に達し、2回予定の講演会を3回に増やして対応しました。

模擬人形と説明



見本指導



社員も真剣



ISO 認証及び認定事業所(者)の取得状況

当社は「RC」や「ISO（国際標準化機構）」並びに「保安関係法令に基づく認定事業所（者）」の取得や、社員の自己啓発への努力を積極的に奨励し、社員一人ひとりの能力と資質の向上に努めています。

2012年4月には、ボイラー等の運転や保全に関する管理体制が確立され、定められた基準に基づく高度な管理や自主検査が行われる等により、一定水準以上の管理が行われていると労働基準監督署長が認めた第一種圧力容器の「2年開放検査周期（2年連続運転）」認定を、当工場とジェイエスアール クレイトン エラストマー株式会社 鹿島工場に加え、日本ブチル株式会社 鹿島工場が追加更新認定を受けました。

分類	対象認証・認定制度	※取得状況	更新年月
品質	ISO 9001:2008	○	2009年12月
環境	ISO 14001:2004	○	2010年12月
保安	高圧ガス保安法	停止しないで検査（運転中検査）	○
		停止時検査	○
	消防法（危険物）	変更時完成検査	○
		労働安全衛生法	2年開放検査周期（2年連続運転）

RCキャラバン

毎年、RC担当役員によるRCキャラバンを各事業所ごとに実施し、RC活動の周知徹底並びにRC活動年次報告を行い、当社及び各工場の現状・課題等について全社員に共有化を図り、改善活動の計画的推進を指導しています。2011年度も、グループ企業の従業員を含め多くの方々が聴講しました。



RCキャラバン



RCキャラバン

環境標語・ポスター表彰

当工場では、毎年6月の全国「環境月間」時期に合わせてグループ企業の社員・家族を含め、環境標語及び環境ポスターを募集し、厳正な審査を行い表彰しています。

2011年度の1位となった標語とポスターを紹介します。

「捨てないで使える資源とあなたのモラル
意識を高めて守ろうわれらの地球」

●標語の部 第1位 原田さん



●ポスターの部 第1位 河内さん

社員表彰制度

当社では、各種社員表彰制度及び公資格取得援助制度を設け、社員の社業への貢献などに報いると共に自己啓発の援助に積極的に取り組んでいます。

表彰内容は、功労表彰から提案表彰まで社員対象14項目及び協力社員対象3項目の各種表彰制度により、業務成果等に報いチャレンジングな企業風土の醸成とモチベーションの向上に努めています。

社外表彰受賞

(社)石油化学工業協会主催で開催された「第29回保安推進会議」の席上で、当工場長が『労働災害防止への取り組み』を演題に、JSRの安全マネジメントシステムの概要、労働災害防止に向けた取り組み、KZ(ケガゼロ・危険ゼロ)活動及び個人の弱点克服宣言活動など具体的な事例発表を行いました。

また、保安推進会議終了後に行われた「第3回保安表彰」で、保安優良職長として表彰されました。

2011年度の保安及び労働安全関係の外部表彰受賞状況は下表に示すとおりです。

表彰団体	表彰区分	受賞者	受賞理由
(社)石油化学工業協会	保安優良職長(会長賞)	鈴木 昭二	職場の保安確保
(社)鹿島労働基準協会	優良従業員(会長賞)	山本 秀悦 内山 英泰	
神栖市	一般功労者	JSR 鹿島工場 合同事業所	消防力強化・防災思想の高揚

鈴木さん



山本さん



内山さん



自動車適正運転診断

当工場では日頃から「加害事故ゼロ」及び「被害事故半減」を目標に掲げ、交通安全標語の募集・表彰、正門での立哨・指導、朝礼での輪番制による1分間スピーチ、交通事故事例の水平展開等での啓蒙及び交通安全意識の高揚を図り交通事故撲滅運動を展開しています。2011年度は、運動の一環としてJSRトレーディング株式会社及び日本興亜損害保険株式会社様のご協力を得て「自動車適正運転診断」をグループ企業・協力会社員含む84名の方が診断、専門のカウンセラーから診断結果に基づいた安全運転のアドバイスをいただき安全運転に努めることを誓いました。

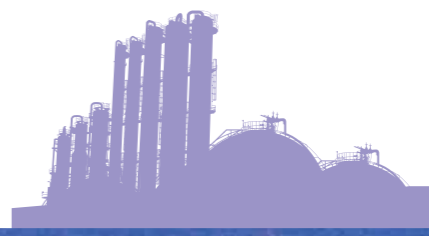
自動車適正運転診断



自動車適正運転診断



自動車適正運転診断



鹿島工場の概要

当工場は、1971年鹿島東部コンビナート内に建設され、エチレンセンターである三菱油化(株)鹿島事業所(現:三菱化学(株))から原料の供給を受け、ブタジエン(BD)の製造及びスチレンブタジエンゴム(SBR)の製造を開始しました。その後、1972年にイソプレン(IP)の製造及びポリイソプレンゴム(IR)の製造、1990年に水処理剤(WSP)の製造、1989年に熱可塑性エラストマー(TR)の製造、1992年にブタジエンプラントの能力増強及びエチレンプロピレンゴム(EPR)の製造、2006年には光学樹脂モノマー(DNM)の製造を開始し、現在に至っています。

なお、当工場内には、ハロゲン化ブチルゴム(HIIR)を製造する日本ブチル株式会社(JBC)鹿島工場(JSRとエクソンモービルの合併会社)とポリイソプレンゴム及び熱可塑性エラストマーを生産するジェイエスアールクレイトン エラストマー株式会社(JKE)鹿島工場(JSRとクレイトンポリマーホールディング・ビー・フェーの合併会社)があり、石油コンビナート等災害防止法上、当工場を主たる事業所とする合同事業所となっています。

鹿島工場の製品、生産能力及び主な用途

社名	製品名	生産能力(トン/年)	主な用途
JSR	BD	120,000	TR、合成ゴム原料
	IP	36,000	IR、TR、合成ゴム原料
	EPR	36,000	自動車部品、各種ホース
	DNM	3,200	光学樹脂原料
	WSP	1,200	水処理剤
JKE	IR	41,000	ラジアルタイヤ
	TR	45,000	食品トレイ、アスファルト改質剤
JBC	HIIR	70,000	タイヤの内張り、葉栓

鹿島工場の受賞歴(主なもの)

年	月	表彰内容	授与者
1976年	7月	労働基準局進歩賞(安全)	茨城労働基準局長
1979年	5月	日化協 安全賞	日本化学工業協会会長
1992年	10月	通産大臣賞(高圧ガス優良事業所)	通産大臣
1993年	7月	労働大臣進歩賞(労働安全)	労働大臣
1994年	7月	消防庁長官賞(自衛防災)	消防庁長官
1995年	10月	労働大臣努力賞(労働衛生)	労働大臣



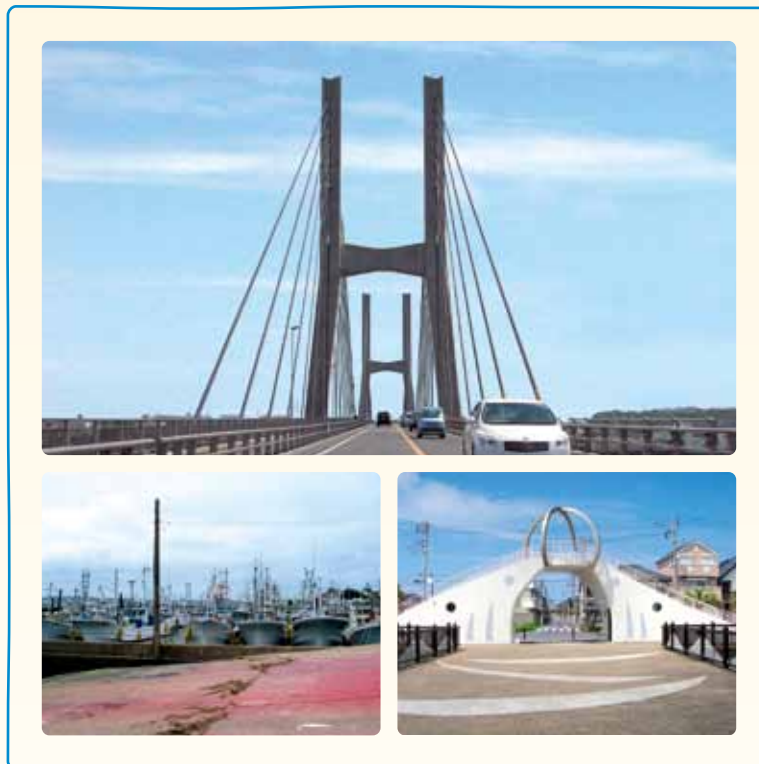
JSR株式会社
鹿島工場

〒314-0102 茨城県神栖市東和田34-1

TEL : 0299-96-2511

FAX : 0299-96-5695

<http://www.jsr.co.jp>



JQA-EM6830



CM009

